

授業科目名： 英語科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：森 直樹 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT等とのチーム・ティーチングの方法について理解する。</li> <li>・生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。</li> <li>・中学校及び高等学校の学習到達目標に基づく各学年や科目（高等学校）の年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解するとともに、学習指導案の作成方法を身に付ける。</li> <li>・効果的な言語指導の基礎知識と、複数の技能の統合的な指導のあり方について理解する。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>英語科指導法Ⅰの内容を踏まえ、英語科の指導計画、授業の組み立て方、学習指導案の作成方法を学び、視聴覚教材による4技能5領域の実践的指導の具体例の考察や、グループディスカッション等のアクティブラーニングを通して学校英語教育に関する基礎知識を豊かにする。</p>			

## 授業計画

- 第1回：英語科の指導計画と授業①（概要）
- 第2回：英語科の指導計画と授業②（領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画）
- 第3回：英語科の指導計画と授業③（学習到達目標に基づく授業の組立て）
- 第4回：英語科の指導計画と授業④（教材及びICTの活用）
- 第5回：英語科の指導計画と授業⑤（英語でのインタラクション）
- 第6回：英語科の指導計画と授業⑥（ALT等とのチーム・ティーチング）
- 第7回：英語科の指導計画と授業⑦（生徒の特性・習熟度への対応）
- 第8回：英語科の指導計画と授業⑧（単元計画、各授業時間の指導計画）
- 第9回：英語科の指導計画と授業⑨（学習指導案の作成方法）
- 第10回：4技能5領域の指導準備（単元計画、学習指導案、教材の作成）
- 第11回：4技能5領域の指導 ①（「聞くこと」と「話すこと [やり取り] ・ [発表] 」について）
- 第12回：4技能5領域の指導 ②（「読むこと」と「書くこと」について）
- 第13回：4技能5領域の指導 ③（4技能統合型の言語活動について）
- 第14回：4技能5領域の指導 ④（新しい学習指導要領に基づく英語の授業について）
- 第15回：「アクティブラーニング」の視点からの授業改善

## 定期試験

※スクーリングでは第11回～第14回を扱う。

## 教科書

- (1) 新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版（大修館書店）

## 参考文献

- (1) 文部科学省『中学校学習指導要領〈平成29年告示〉解説 外国語編』開隆堂出版
- (2) 文部科学省『高等学校学習指導要領〈平成30年告示〉解説 外国語編』

## 学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。